

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導	<p>1 分かる授業を行うため、習熟度別学習や少人数学習を実施します。</p> <p>(1) 数学は、2・3年生で習熟度別及び少人数学習を、英語では、各学年で少人数学習を実施します。</p>	<p>1</p> <p>(1) 実施した。(達成)</p>	<p>1</p> <p>(1) 習熟度別学習、少人数学習については、例年どおり実施し、生徒へのきめ細やかな対応を行った。授業改善の一環としてアクティブラーニングに係る模擬授業、研修を行った。また生徒による「授業アンケート」の実施を促し、「分かる授業」への改善は一定推進できたが、校内全体への普及には課題が残る。</p>
	<p>(2) 定期テストとは別に、宿題テスト、校内実力テスト等を実施します。</p>	<p>(2) 計画どおり実施した。(達成)</p>	<p>(2) 教員が大学入試を分析し、各学年のそれぞれの段階において生徒がつけるべき学力を問う校内実力テストを実施した。生徒の学力向上や教員の問題作成・検討による教科指導力の向上に資することができた。試験内容の一層の精査が課題である。</p>
	<p>(3) 宿題などの提出が出来ない生徒に居残り指導を実施します。</p>	<p>(3) 実施した。(達成)</p>	<p>(3) 従来通りの指導を行う一方、本年度より「学力向上学習委員会」を発足させ、学習状況の分析、教科内で学習方法の統一、課外授業のありかたや内容等を検討する機会ができたことは、大きな一歩であった。今後、教科として計画的な指導体制を確立させていくことが課題となる。</p>
	<p>2 シラバスの一層の充実と活用を行い、学習内容・ねらい・評価方法の明確化により、学習意欲の向上と効率化を図ります。</p>	<p>2 計画どおり作成した。(達成)</p>	<p>2 シラバスは例年作成しているが、生徒が充分活用できるものとしては不十分である。生徒が活用でき、且つ先生方も指導指針(進度やテスト範囲)として引き継げるようなシラバス作成が今後の課題である。</p>
	<p>3 公開授業を実施し、外部の声を授業改善に生かします。</p>	<p>3 計画どおり実施した。(達成)</p>	<p>3 4月23日(土)に授業公開を行い、240名の保護者等に参観いただき、アンケートも昨年度の倍の回答があった。(回収127) 2回目の授業公開週間は、訪問者は30名。本年度、中学校対象の公開授業日を新たに設けたが、参加者はなかった。アンケートには貴重な意見等が多くあり、職員に周知しながら改善に資するよう推進した。</p>

<b>教科指導</b>	<p>4 授業時間数を確保します。 (1) チャイムと同時に授業を開始します。</p> <p>(2) 曜日による実質授業時間数に偏りが生じないよう、曜日変更等を行います。</p> <p>5 授業中心の学習サイクルを確立するとともに、家庭での学習時間を確保するように指導します。</p>	<p>4 (1) ほぼ実施した。(達成)</p> <p>(2) 曜日変更等を行い、曜日間の授業時間数の差に対応した。(達成)</p> <p>5 学年により取組方法は異なるが指導している。(達成)</p>	<p>4 (1) 先生方は休み時間の内から教室に入り準備をしており、時間の有効活用に対する取り組み姿勢は充分評価できる。</p> <p>(2) 授業時間数については、曜日変更など様々な取組を行い、その確保に努めた。ただ、年間授業時数を年度当初に職員に伝えておらず、時間調整も学期毎であるため、年間計画や学期毎の計画を立てやすくするよう配慮が必要である。</p> <p>5 学習手帳等の活用による指導に一定の成果が見られるようになった。学習時間と模試結果の分析、クラブ活動との両立、また学習への意欲向上に資する取組は、「総合的な学習の時間」の活用を含め、今後も継続して研究、協議し推進する必要がある。</p>
<b>進路指導</b>	<p>1 全学年各学期に1回の面談期間を実施し、生徒の高校生活の状況や進路希望の把握に努めます</p> <p>2 「ようこそ先輩」(社会人OBの講話)、外部講師による講演会、卒業生の体験談を聞く会、オープンキャンパスへの参加指導、津西一日総合大学を引き続き実施し、生徒のキャリア教育を充実させます。</p> <p>3 早朝課外、放課後課外、土曜課外及び長期休業中の課外を引き続き実施します。</p> <p>4 進路だよりを充実し、生徒のやる気を引き出します。</p> <p>5 進路研修会を開催し、生徒の進路希望について職員の共通理解を図ります。</p>	<p>1 実施した。(達成)</p> <p>2 関係者の協力をいただき、計画どおり実施した。(達成)</p> <p>3 設定した各課外講座については計画どおり実施した。(達成)</p> <p>4 1年生に5回、2年生11回、3年生12回発行した。(2月末現在) (達成)</p> <p>5 実施した。(達成)</p>	<p>1 面談を通して、学習方法や進路相談のみならず、いじめや体罰の有無等、生徒個々の悩みを把握できた。また昨年度には組織的に生徒状況を把握できる組織構築に課題がある、としたが分掌と担任の連携強化を図り、一部改善することができた。</p> <p>2 1年生対象の「ようこそ先輩」では、各方面で活躍する本校OBがその職につくまでの経過やその仕事内容を、また2年生対象の「津西一日総合大学」では12大学13人の先生方に大学の講義を経験させ、段階を追った生徒のキャリア教育の一助となった。今後は一過性の行事に陥らないよう、その前後の学習を通して、継続したキャリア教育を構築することが課題である。</p> <p>3 例年通り実施したが、昨年度、「内容、時期等に課題がある」としたことに対し「学力向上学習委員会」内で検討した。検討後、これまで学年対応であった課外を、組織として継続的に検討できる方向を模索。引き続き検討を進め、課外授業の充実を更に進める</p> <p>4 昨年度より発行回数が増加。情報提供の一つとしての機能は果たしている。進路だよりを含め、生徒・保護者に向けた情報提供の充実が今後の課題である。</p> <p>5 個々の生徒について、より良い進路指導ができるよう協議した。課題は研修会参加者以外への情報提供と作戦会議に至るまでの進路指導計画の共有と教員個々の研修。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
進路指導	6 国公立大合格者数を現役 150 名以上にします。	6 年度末集計予定	<p>6 昨年度末「津西高校指導ガイドライン」を策定。これまでの課題をふまえて初期指導を中心とした一貫した進路指導案を、本年度より実施した。一定の成果も見られるが、教科の計画等の改定を加えながら、改善と浸透を図る。</p> <p>先進校視察（豊橋東・豊田西高校）を実施。県主催の先進校視察報告会と同時に報告会を実施。進学校の取り組み事例を共有し、今後の方向性の指針の一つとした。</p> <p>昨年度の学校関係者委員からの評価結果の一つとして「普通科の充実」という課題があったため、本年度よりこれまで国際科学科のみで実施していた「レインボーオリエンテーション」を「スタディガイダンス」として普通科でも同様に実施することとした。初期指導の一貫として、両科とも学習の軌道に乗せる良い機会となった。</p> <p>来年度に向けて、保護者に向けた進路指導方針等の情報提供を充実させるため、各学年で実施している保護者対象の「進路研修会（進路講演会）」について検討したい。</p>
生徒指導	<p>1 常に津西高校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てます。</p> <p>2 地震や津波など自然災害に対し、適切な行動のできる生徒を育てます。</p> <p>3 校門指導等により、遅刻の防止とあいさつ指導を徹底します。</p> <p>4 部活動や文化講演会、図書館講座等を通じて豊かな人間性の育成を図ります。</p>	<p>1 実施した。（達成）</p> <p>2 地震については避難訓練、津波に対しても本校の危機管理マニュアルに基づき指導している。（未達成）</p> <p>3 年間を通じて実施した。（達成）</p> <p>4 実施した。（達成）</p>	<p>1 「自学・自習・自主・自律」の理念のもと、学校全体で健全な心身と豊かな人間性を持つ人材の育成に努めた。</p> <p>2 避難訓練が画一的になっている。また津波に対して、マニュアルはあっても訓練を行っていない。実際にその場面に遭遇した時適切な行動がとれるかどうか不明な部分が多いため、本年度は地震体験車による体験を実施。取組方法や職員向けの研修等、改善を要する部分がある。</p> <p>3 校門指導等は継続して実施し、挨拶の指導を一層図りたい。遅刻件数はここ数年間減少傾向であったが、本年度微増したため、遅刻防止に係る指導を再度徹底したい。</p> <p>4 文化的行事として演劇鑑賞会を行った。図書館では、文化講演会に 93 名、サロンドライブラリーに 100 参加した。また、3 回目のビブリオバトルを実施、6 名の生徒が発表し、34 人の生徒が参加した。また、部活動では、インターハイ出場等の成果があり、学習と部活動の両立を図りながら、人間性の育成に繋がった。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
生徒指導	5 昨年度(H26)は、いじめ認知件数が0であったが、今後も生徒が安心安全で清潔な環境のもとで学校生活を送れるよう、環境整備を含め努力します。	5 いじめ・体罰調査。清掃活動の徹底・エコ活動への取組・健康問題の周知。生徒指導講話・不審者情報の迅速な伝達・関係機関との連携、登校指導等を実施した。(達成)	5 校内で生徒が伸び伸びと活動できる環境は整っている。調査等だけに頼らず、日々の生徒の変化を見逃さないように取組を進めたい。いじめの認知件数は5件あったが、いずれも早期発見、早期解決している。他、本年度より一斉メールシステムを導入し、迅速な情報提供についても改善できた。
	6 自転車通学生が多い現状を踏まえ、交通安全に努めます。 (1) あらゆる機会を捉え、自転車の乗車マナーを徹底します。  (2) 自転車点検を年間1回、自転車のステッカー点検を年間2回実施します。  (3) P T A、地域社会及び各関係機関と連携し、通学路の点検及び改善に努力します。	6  (1) 乗車マナーについては、あらゆる機会を通して指導した。(達成)  (2) 計画どおり実施した。(達成)  (3) 実施した。(達成)	6  (1) 職員による校門や西団地交差点での指導等を年間通じて登下校時に行うことができた。しかし、地域から自転車並列運転等の指摘がある。自転車事故の件数は微減したが、事故は起きており、交通マナーをしっかりと守らせるよう講話等や日々の登下校指導を継続していく必要がある。  (2) 7月に自転車点検を実施し、ステッカー点検を年間で7～8回実施した。昨年度の年間2回から、点検回数を増やし点検の徹底を図った。結果として、ステッカーが貼ってあるために、盗難にあっても、放置自転車として連絡があり見つかるケースがあった。校外での自転車盗難が増加しており、ツーロック等についても指導を徹底させていきたい。  (3) P T Aや地域とのより緊密な連携が今後の課題である。
	7 人権学習に積極的に取り組みます。	7 計画どおり実施した。(達成)	7 人権総合学習を実施するにあたり関連機関とも十分な連携をとりながら、事前学習・事後学習も含め積極的に取り組むことができ、生徒の人権意識の向上を促すことができた。 今後は教員の人権教育に係る資質向上が課題であり、また今後取組が本格化する「道徳教育」との関係も精査していく必要がある。

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
S P P	<p>1 過去6年間のSSH事業の成果を継続、発展させるため、将来理系で活躍できる人材を育成していく一環として、SPP事業への取組を学校全体で推進していきます。</p> <p>(1) 三重大学との連携を強化して研究を推進するとともに、地域の小・中学校との連携も行います。</p> <p>(2) 生徒の希望に応じたコース別実習の実施、記念講演会を実施します。</p> <p>(3) 今年度の事業成果を踏まえ、より発展させた特色あるSPP事業を計画・申請することで事業を継続すると共に、事業の成果を発信していきます。</p>	<p>1 計画どおり実施し、普通科の生徒も若干名が加わった。 (未達成)</p> <p>(1) 計画どおり実施し、本年度は2校の中学校と連携がとれた。 (達成)</p> <p>(2) 計画どおり実施した。 (達成)</p> <p>(3) 予定の成果発表を行った。 (達成)</p>	<p>1 中谷財団の援助を継続して受けたことで、昨年を上回る内容で実施することができた。事業の中の取組や講演会、発表等を通して科学に関する興味関心を向上させることができ、理系選択者も例年通りとなった。昨年度まで国際科学科のみの取組であったが、中学校との連携を加えることで、普通科の生徒が参加することができた。更に学校全体の取組となり、理系生徒の育成を推進することが課題となる。</p> <p>(1) 三重大学工学部等の協力をいただき、大学と連携して事業を推進している。また、地域の2小学校でサイエンスセミナーを行った。生徒は生き活きと取り組み、科学に対する興味関心に加え、プレゼン能力の育成にも繋がった。本年度は2校の中学校と連携したが、内容や方法等を充実させることが今後の課題となる。</p> <p>(2) 10月に本校で生徒全員対象のSPP記念講演会を実施した。また、国際科学科1年生は、コース別実習を実施した。</p> <p>(3) 次年度も、本年度と同様の事業を実施する予定。内容の拡充等を含め本校の看板となるような事業となるようにしたい。本年度は、「学校説明会」、「学校見学会」の折にも発表し、発信力を高めた。 12月にはそれぞれのグループによる発表会を開催し、三重大教授、県教育委員会指導主事、中谷財団関係者等を招いて、講評もいただいた。昨年度にくらべ、発表内容、プレゼン等が向上し好評を得た。ただ国際科学科1年生に限られているため、国際科学科の2学年以降の継続性や、また普通科の生徒に対する参加、取り組みができるよう検討する必要がある。 加えて成果の発信（発表会）の方法等にも改善の余地がある。</p>

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織力の向上	1 生徒、保護者、教職員などへのアンケートを実施、分析し今後の改善を図ります。	1 計画どおり実施した。 (達成)	1 生徒には高校生活意識・満足度調査を、保護者には保護者アンケートを実施し、多数の回答をいただいた。意見を受けて、職員に集約を周知し、改善できるところを提案した。 また要望が多かった台風時等での緊急連絡については、「きずなネットシステム」を導入したことから、一定の評価があった。
	2 中学校(生)への積極的広報を行います。また、学校説明会を充実し、参加者数1000名以上を達成します。	2 計画どおり実施し、目標人数を超える参加者があった。また、学校見学会では1200名程の参加があった。 (達成)	2 広報活動の一環としてスクールガイドの全面改定、プレゼンPPの改訂、年末にはポスターカレンダーを配付し広報活動の改善に努めた。学校説明会は成果発表の場を増やすなど改善し、大変好評を得た。学校見学会では、授業見学を加え本校の情報発信として有用であった。夏場の体育館使用、配付物の不足など、準備に課題が残ったが、学校説明会、見学会とも人数以上の広報効果があったと思われる。
	3 ホームページを充実し、情報の更新と魅力化に努め、1日のアクセス数を120件以上にします。	3 アクセス数は1日平均約 <u>160</u> 件であった。	3 ホームページは、保護者アンケート等では賛否両論あるが、より分かりやすく、情報の取り出しやすいものへの充実を図る必要はある。アクセス数は年々増加傾向にあり、次年度に向けた改善課題である。
	4 会議や学校行事等の精選を行い、総勤務時間縮減を図り教員が、生徒と向かい合う時間を確保する等、教職員のやりがいを高めます。	4 会議は増加傾向。総勤務時間は横ばい。(未達成)	4 17時前から開始する会議が何回もあり、会議の設定日、時間に課題が残る。「定時退校 week」は、一定の成果があったが、全体の総勤務時間縮減に向け、教職員の相互協力を呼びかけているが、有効な対策が見いだせていない。本校のみならず、教職員の大きな課題である。
	5 各教職員が広く知識やスキルを習得するため、研修会に積極的に参加できる、働きやすい職場環境づくりに努めます。	5 参加機会の保証を行ったが充分ではない。(未達成)	5 より一層の計画的な研修機会を整える必要がある。これには日常業務の精選やクラブ活動とも関連するため、これらを含めた改善が課題となる。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	<p>1 校長から教職員に面談等の対話を軸として、本校の目指す方向（ビジョン）が明確に分かりやすく示されており、概ね共通理解ができている。</p> <p>2 「津西高校指導ガイドライン」の策定等により、「学力向上学習委員会」を発足し、学年主体の進路指導から学校全体として組織的な進路指導への変換を図ろうとしており、改革に向けた風土が整いつつある。</p> <p>3 面談、高校生活意識・満足度調査、教科指導、部活動等を通じて、生徒の要望や期待する内容を具体的に把握している。また、いじめ・体罰等の調査についても、迅速的確に対応しようとしている。</p> <p>4 各校務分掌・学年で立案された年間計画がどのように実施・展開されたかを確認する機会（分掌・学年の反省）を持ち、全体で議論し共有する場を持っている。</p> <p>5 教員が生徒一人一人に対し、丁寧な指導をしている。これらにより先生と生徒の関係性、また生徒同士の関係性が良く、生徒の満足度調査、保護者アンケートにおいても学校に対する満足度が高い。</p>
弱 み	<p>1 学校の組織全体の能力を高めるため、学年・教科・分掌の枠を超えた連携、改善点を次年度へ円滑に引き継げる体制が充分ではない。</p> <p>2 個々の職員の業務量が多いため、生徒とのコミュニケーションの機会や研修会の時間を確保することが難しい。</p> <p>3 各種アンケート結果について、全体での共有はできているが、重点を絞り込み、優先順位をつけるなど改善活動を円滑におこなうためのしくみが必要である。</p> <p>4 高い能力を持った生徒を十分に伸ばしきれていないとの指摘もあり、また目標達成（国公立現役 150 名以上）に向けた取り組みが、先生個々の力量や該当学年に委ねられる傾向がある。昨年来、課題として取り組んでいるが、組織的な取り組みとして充分ではない。</p>

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
〈実施回数〉 2回	
実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営の改革方針について</li> <li>・各種アンケート結果について</li> <li>・授業見学・行事見学の感想等について</li> <li>・学校自己評価について</li> </ul>

#### (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・選抜で国際科学科と普通科の棲み分けをつくってしまうのではなく、普通科内でもポテンシャルの高い生徒同士で競い合う状況（例えば特進クラスの編成）は作れないか。</li><li>・学科を問わず、校内でチャレンジできる校風、雰囲気をつくってはどうか。</li><li>・難関大学の合格数が少ないのは弱み。特に前期選抜での入学者の進路状況が気になるところ。上位層の引き上げを期待したい。</li><li>・この1年の改善活動等により、国際科学科と普通科の「差」がアンケート等でも少なくなったことはよいと思う。</li><li>・先生方の学習やクラブ活動に対する手厚い指導は強み。反面、先生方の過重労働が気になり。息を抜けるスペースや喫茶コーナーのようなリフレッシュできる場所、時間が必要ではないか。</li><li>・学習やクラブ活動に打ち込める環境が整っていることは、強みであり魅力。</li><li>・広報活動は冊子、カレンダー等よいと思うが、四日市方面など広域に広報してはどうか。</li></ul>

#### (5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"><li>・「津西高校指導ガイドライン」を推進し、また学力向上学習委員会等で成績上位層の引き上げの方策や、学力全体の底上げに取り組む。</li><li>・難関大学希望者グループの学力の引き上げ。</li><li>・学力の向上を目指した授業改善。また「授業アンケート」の実施の促進。</li><li>・保護者との連携を深め、情報共有を推進するための取組。（P T A進路講演会の見直し）</li><li>・過重労働対策の推進や職場環境の改善。</li><li>・広報活動の推進。</li></ul>



